

わくらば 病葉

病葉は夏に青葉の中に時折褐色などに変色した葉をみる... 今夜は、台所に残る亡母のレシビを使つてのお料理...

わくら葉や厨に亡母のレシビメモ 佐藤八千子

今月の推薦句

アリス気分庭にキノコのドット柄 林 香澄

ドット柄とは水玉模様... エレガントな趣きがあり、古典柄のひとつ...

長者原くるりと廻る蜻蛉の目 富田 一主

くるりと廻つたのはトンボの目か富田さんか... 長者原の美しい風景が浮かびます...

かしわ餅苦笑いする甘さかな 日野ムツ子

友達を呼んで一緒に食べる粕餅、苦笑いをするような甘さとはどんな甘さなのか... 中七の意外性が効果的です。

願い事わんさと背負う笹飾り 小田 純子

笹飾りは七夕を意味します... 中七の「わんさと背負う」でリズム感が倍増...

俳句の基本 感動をせきとめて切る

読者俳句

ふるさとの俳人たち

その⑥ 井上 阿堂

阿堂こと本名井上茂氏は大字恵良のご出身で大正二年七月二十日にお生まれ... 昭和初期の梨園の開墾と経営に独力で挑み今日九重梨の基礎を築かれたお一人...

みほとりに広がってゆく初明かり

この句は、急逝された平成五年のNHK学園俳句大会での最優秀作品... 秀作。「一生に一ついい句をつくればいい」と言っていた阿堂俳句の辞世の句となった...

共同田初満載の馬車を押す (昭和三八年)

幾万の幾万の雪ダムに消え (昭和五三年)

売られゆく牛百頭に秋深し (昭和五五年)

栗落ちて命ころころころびけり (平成 五年)

佳作 十九席

手のひらの渴きに母乗せてゐる 豊國 居酒屋のまずは一品莢豌豆 重吉 家中に風を招きて梅雨晴間 律子 手解きをつなぐ松の芽摘みにけり ヨウ子 万緑や背筋をピンと古希に入る 則子 紫陽花や絵画の如し花手水 直人 雑貨屋の主は茶髪花の雨 末子 茄子の花徒花なくて実をつけて 左世美 パノラマやひねもす丘の白日傘 トシ子 ワクチンの済みたる後の午睡かな 泉溪

瓜の花葉陰に咲いて誰を待つ 桐友 日盛りや五輪揺さぶる地球の輪 勝子 吊るされて玉葱坊主の並びけり 次江 夏草に負けているかや老夫婦 文雄 匂いくる白つめ草の首飾り ヤスコ 蛸や命の限り鳴き尽くす 良子 留守居役主の如く花ざくら 好美 水無月の青の起伏や阿蘇平野 千ズ子 涼風の我に戻りて息ひとつ いづみ

(選者・評)「時には肩の力を抜いた句をつくりましょう」と句会の席で言われたことを思い出します。「俳句の本質は挨拶と滑稽、即興にある」と言ったのは評論家の山本健吉氏です... 季語が豊富な初秋です。季語を先取りして、早目のご投稿をお待ちし(りゅうしょう)



井上阿堂遺句集

8月号の締め切りは、7月26日(必着)でお願いいたします。選者(古後粒勝)宅にハガキ等で直接送付いただいても結構です。住所(九重町大字栗野1414番地)



広報このえは、環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。



広報このえは、UD文字を使用しています。